

2022年度卒業記念講演 静岡医療センター附属静岡看護学校

テーマ：「医療者として仕事の質を向上させるために大切な3つの視点」&「いつかきっと役に立つ3つのお話」

1.強く印象に残ったこと

- ・事例で出てきた尋常性乾癬についての説明を少しですが聞くことができて良かった。実習で受け持たせていただいた患者さんでこの疾患の方がいて、尋常性乾癬のコントロールはできているが、糖尿病・血糖のコントロールはできていない状態であった。皮膚の疾患はボディイメージの変化が大きくみられるため、目に見てわかる変化というものが大きいのではないかと昨日の先生の講義を聞いてもう一度考えることができ、その患者さんにあてはめて考えることができ良い学びができた。満足度でなくて何を目指すのかという先生のお話で、どれだけ真摯な姿勢で患者と向き合えるか、患者に納得してもらえるように一緒に考えるというプロセスが病気が完治しなくとも患者さんが病院に行って良かった、治療がんばって良かったと思ってもらえることに繋がっているのではないかと考えることができた。基本があれば臨機応変に動ける、看護師に求められるもの、自分の事もできない人が他人のことはできない、情報は正しいことを伝えることで誠意が患者に伝わり信頼感系ができる、信頼関係があって医療に初めて血が通うなど他にも様々な先生の言葉が心に残った。
- ・「ピボット戦法」についてが印象に残りました。原点に戻って、社会人として進歩できるようにしていきたいと思いました。また、準備の段階で不安を消すことが自信へと繋がるということも印象に残りました。不安に対して責任や覚悟を持つことが大切であるということも学ぶことができたので、今後、不安におそわれた時には今回の講義のことを大切にしたいと思いました。
- ・医療に関係する職種として患者さんと信頼関係を築き、いかに治療に必要な情報やキーワードを引き出すかが大切ということは実習を通じて身にしみる程分かったので、社会人として病院内で働きだしたとしても、患者さんとのコミュニケーションを忘れずにしていかなければならぬと分かった。
- ・患者さんの満足度に関する話で、治療がうまくいっても患者さんの思いは人それぞれなので、治療しても不安が生じる人、前向きにとらえる人がいるというのが強く印象に残りました。医療者側が満足しても患者さんにどんな想いがあるのかを深く聞いて患者に寄り添えるような看護師を目指そうと思いました。
- ・信頼関係は、患者さんとの仲の良さではなく、患者さんとの関わりの中でどれだけ患者さんにとって納得できる情報を発信できるかという言葉が印象に残りました。
- ・時間がないことを言い訳にやらない人は、ただやる気がないだけという話が一番印象に残っている。私も良く時間がないことを言い訳に、出来なくともしょうがないと思っていた。しかし、思い返して

みると、SNS をやっている無駄な時間があったので、時間をうまく使い、時間がなかったという言い訳はしないようにしたいと思った。

- ・「覚悟」と「余事を捨てて」という 2 つのワードがとても印象に残りました。何かに本気で取り組むとは、どうゆう姿勢ことをいうのか分かった気がしました。医療者として仕事をする上で大切な事についても、全員が名看護師であるべきだというお話は厳しくも当たり前に重要な事であり、患者さんことを考えたら忘れてはいけないと感じました。
- ・看護を行う側と受ける側では満足度が異なることが分かり、満足が得られているかどうかを確認するためにもしっかりと話し合うことが大切ということが分かり、実習を振り返り、十分に患者さんが満足することが出来ているかどうかを話したり、質問したりすることが不十分であったのかなと思ったので、今後はもっと深いかかわりをしていきたいと思った。
- ・情報の送り手と受け取り手では、それぞれ注意すべきことが異なり、人それぞれで送り方や受け取り方は異なるということが印象に残りました。送り手は情報を正確にわかりやすく伝えること、受け取り手は情報と情報をつなげて理解した上で受け取るという姿勢が大切であると実感しました。医療者として仕事の質を向上させるためにコミュニケーション、報連相は必要不可欠であると思うので自分が受け手の場合、送り手の場合でしっかりと注意することは注意して情報を発信していきたいと思いました。
- ・プロフェッショナルはイコール当たり前であり、そのためにまずは「めくばり」「きくばり」「こころくばり」を自身に定着させが必要となる。医療従事者としての「基本に忠実」は難しい。また、新しいことはごまかしが出来ない。成長するにはピボット戦法が効果的で自分の中で「できる」軸足を 1 つつくり、可能な範囲でもう 1 つの「挑戦する」足を動かす。軸足をしっかりと固めるため、できることを繰り返し、質を高めていく。情報の受け取りとしては日々準備していくことが必要。
- ・「自分をつくりこむこと」が強く印象に残りました。私は社会人として看護学校に入りました。初めは覚悟を決めていましたが、いつの間にかブレが生じ周りの人への配慮が欠けていた時もありました。医療は命と向き合う仕事であるため、4 月から改めて覚悟を持って医療（看護）を考えています。
- ・私が一番印象に残っていることは、「ドキドキするのは何もやってないから」という言葉です。その通りだと思いました。習い事の発表会でも、何時間も練習したものは本番で自信を持って実施でき、時間が足りず不安しかないものは頭が真っ白になり上手く行えない。国試でもそうでした。前日も不安や焦りでなかなか眠れず当日を迎えるました。ずっと不安であるのは、自信を持てるほど打ち込めていなかったからであると思いました。自分自身を変えるのはとても難しいことですが、先生のように 5 年間も他のものを断ち、ひたすら本を読むストイックさを見習っていきたいです。

- ・真摯に患者さんと向き合うこと、誠実さという話で、患者さんに看護を提供し、満足してもらうためには、患者さんをより深く丁寧に知ろうとすることが本当に大切であると考えており、私自身、看護観として大切にしていることでもある為、印象に残りました。何かを達成する人は、出来ないことを「時間」のせいにしないし、何がなんでも自分で時間を作り怒力するため、自分も限られている時間を大切に過ごしていきたいと感じました。私は小さなことで悩みやすいのですが、偉人の話を聞いてとても些細なことだと感じたため、自分だけが大変とか苦労しているとか思わず、うまく対処して自分の健康を保ちながら患者さんにより質の高い看護を提供していきたいと思いました。
- ・印象に残っているのは、満足度の事例で、同じ疾患、同じ治療でも患者さんはひとりひとり感じ方は違う、性格も違うため、その個別性に合わせた関わりをすることによって質のいい看護に繋がり、同じ成果であったとしてもこちらの患者さんへの真摯な姿勢や誠意のある関りが患者さんにとっての満足度を上げるということを改めて考えた。また、質問に対して先生がおっしゃっていたことで、寝る時間以外本を読んでいたと聞いて、いかに自分が時間を有効に活用できていないか気付き、自分の人生を豊かにするためにも、もっと多くの事を学び続けたいと思った。
- ・医療者の立場と患者それぞれの立場で、満足度の感じ方が違うのは今までの実習の中でも感じた事なので、改めて難しいことだと感じた。
- ・「覚悟を持って物事を行うこと」21年間という短い人生の中であるが、これまで絶対叶えたいと思い行動に移したことは必ず良い結果が出ました。そのため、先生の話を聞いて、覚悟を持って行っていったのではないかと思いました。これからもそのことを忘れずにいきます。
- ・とても大変な経験があったからこそその話であると考えました。講演を聞いただけでは成長できないので、まずは実行して沢山経験や失敗して成長できればいいと思います。
- ・意志力の話が印象に残った。傾聴よりも観察が大事。
- ・私が印象に残った話は、物事に集中するためには余事をなくしたり、時間がないとだいたいの人が言うといったことでした。自分も目標を立てて、そこに向かって努力するためには、その時間をどれだけ無駄にしないかが大切だと考えることが出来ました。1つの物事に集中しようとしても別の事をすぐにしてしまう癖があり、つい時間がないと言ってしまうので印象に残りました。
- ・医療者と患者の満足度には、客観的、主観的に考えるため、どうしても差が生じてしまうため、患者さんがどうすることで納得してくれるかを考えながら患者さんに向き合うことが大事であると学ぶことができました。3つのgoodのお話で、良い医者が初診時に正しく診察し、看護師が寛解導入時に正しく処置や看護を提供し、患者さんに対して薬の服用などを継続してもらうなど、それぞれの人が自分の役割を理解していくことが必要になってくると学ぶことができました。また、患者さんだけでなく、医療者も成功体験をすることが大切で、それまでの過程で、試行錯誤しながら基本に忠実

に実施していくことも医療者にとって必要になってくることを学ぶことができました。

- ・1つ目は悩みや不安、ストレスが10個あったとき、9個良くなった際、良くなった9個に焦点を当てられるか、悪くなった1つにフォーカスを当てるかで全く変わるし、人それぞれ病気の考え方方が違うということが心に残った。2つ目は「いい患者さん」でないと寛解できず、自分の病気だけど医療を拒否して向き合えない人がいるということが分かった。そのため、1人1人の患者さんの個別性に合わせて、「満足ではなく納得」のいく医療を提供することが大切だと理解できた、3つ目は友達関係の馴れ馴れしさは人間関係の構築にはつながらず、医療人としての質が下がってしまうことが分かった。なので、医療に携わる方、患者様、すべての方々へ適切な態度、対応が大切だと分かった。
- ・仕事において大変な面も多く、自分にとっての課題が出てくると思うが、それに立ち向かうために自分はどうしたら乗り越えられるのか冷静に考える力が必要と思った。
- ・初めのほうにお話しされた「良い医者」、「良い看護師」、「良い患者」のことがとても印象に残ってます。3つのgoodが揃えば医療職側からしてみても、患者さんからしてもお互いに良い看護になり最高になると感じました。ですが、そうできることは中々難しいと思いますので、「良い看護師」として患者さんに看護を提供していきたいと感じました。
- ・同じ疾患で、同じ治療を受けて回復した患者でも、その過程や結果の受け止め方が全く異なるということを改めて認識した。医療者は疾患が治れば「よかった」と思うが、患者さんの中には症状が改善したとしても今後も薬を続けていかなければならないというネガティブな感情ばかりに目を向けてしまう方がいる。そのことを私たちは認識し、私たちの満足度のみでなく患者がどう感じているかに寄り添いたいと思った。
- ・2人の患者の事例紹介で、疾患、治療に対してポジティブ思考の患者とネガティブ思考の患者がいるという話で、一人一人疾患に対する思いは違うため、看護師として患者のQOL向上の為にどのように接していくのがいいのかを一人一人個別性をもって看護していくことが大切であるということを学んだ。
- ・治療効果に対する満足度の話が印象に残った。看護師の満足度と患者の満足度は異なり、客観的、主観的な視点の違いから、それぞれの受け止め方があると改めて考える機会になった。満足度も大切な事だが、納得してもらうことや真摯な姿勢で関り信頼してもらうこともとても大切だと思った。
- ・医療者と患者さんでは、それぞれ満足度に差が生じてしまい、医療者側が治療の効果が十分に出たと思っていても、患者さんにとっては一生病気と付き合っていかなくてはいけないと思っている場合もある為、どうしたら納得をしてもらえるか見つけ出し、患者さんと真摯に向き合うことが大切だということ、また、自分の軸がぶれないようにするために横だけでなく歴史などの縦の軸からも学ぶということが大切だと学びました。

- ・一つ目の満足度に差を感じるのはなぜか？という話の中で、2人の事例をもとに結果に対して良くなかったことに目を向ける「正の集中」をする人と、悪いことに向いてしまう「負の集中」をする人がいて、その捉え方は患者によって異なり、必ずしも結果が良くても満足するとは限らないということが印象に残りました。また、「満足度」という点において、医療者と患者で差があるということを知り、その原因として医療者側は画像や数値の変動といった客観的視点で判断していることに対し、患者側は気持ちや思いといった主観的視点で判断していることに違いがあることであると話を聞いて分かりました。
- ・先生の「覚悟を決める」という言葉が印象に残っています。自分という芯を作り込むには、自分自身と本気で向き合う必要があり、そういう意味でも覚悟は必要であると思いました。また、一方的に伝えたいことを話して終わるのではなく、時間の許す限り相手の疑問を解消するよう努める姿勢はとても見習いたいと思いました。
- ・私は、本気でやろうと思ったら覚悟が必要であるということが特に印象に残りました。私は人に流されやすく、自分の意見をはっきり言えないタイプなので、見て見ぬふりをしてしまうことが多々あります。このような部分でも本気で自分を作り上げたいのなら、人にどう思われても自分の意見を言うという覚悟が必要なのだと強く感じました。まずは、語尾まではっきり言い切ることから始めてみようと思います。岸本先生がおっしゃっていたように、まずは行動に移してみて、何度もトライしていくと強く感じました。また、「プロフェッショナルであることは当たり前」ということも印象に残りました。患者さんの前に看護師として立つ以上、専門的な情報提供や観察する能力を持っていなければ、ネットで調べてしまった方が早いということになってしまふなと感じ、常に勉強をし続けなければいけないと改めて感じました。
- ・満足感は人によって違うという話が印象に残りました。完璧に完治を望むもいれば、だんだん良くなってきたことに喜びを感じるなど、価値観が違うことが例によってとても分かりやすかったです。
- ・何でもないようなことでも何かがあると考え続けることで、次のステージにいける頭を育てていきたいと思った。
- ・満足を得ることができない場合、何を目指せばよいか…というお話の中で、どれだけ真摯な対応で自分たちに向き合ってくれたか納得感、納得度を深められるかどうか。とても心にストンとおちました。終末期の患者さんを受け持たせていただいたときは看護学生として、また、同時期に大切な祖父を亡くし、家族として、両面の無力感や自分の不甲斐なさと色々と考えることが多く、答えを今もなお探して悩む日々があるのですが、人として患者さんと出会い向き合うこと。丁寧に日々を過ごすこと。自身の看護師としての役割を全うできるよう努力したいと改めて決意することができた講演でした。4月から働くというタイミングで岸本先生のお話を伺えて自分自身を改めて振り返ることが出来て良かったです。

- ・満足度に差が出来てしまうことに対し、看護師として負の集中（心のチャンネル）をうまく聞き出したり、関わり方で納得しもらえるような接し方が大切であるというお話が印象に残りました。また、情報を提供する側にも受け取る側にもなるというお話では、例えば君が代でも主観が分からなまま情報を受け取ってしまっていたと考えると、患者さんと関わる際に本人が分からなまま訴えを聞いてしまい、気持ちを汲み取れない場合があると思いました。そうならないように患者さんとの関わりで特に気を付けていることなどあれば教えていただきたいと思います。
- ・名看護師という言葉を初めて耳にしました。プロフェッショナルになることを志していた私にとって、プロフェッショナルなのは当たり前という言葉に驚きました。当たり前が出来てからさらなる高みを目指していきたいと思いました。また、そのために、「目配り、気配り、心配り」を大切にし、患者さんを見て観察するだけでなく、よく耳で聞いて、声に耳を傾ける必要があると考えました。さらにチーム医療について、それぞれの職種で役割は違うけれど同じ景色を見て患者さんを支えるという話が印象に残っています。一人で進むのではなく、みんなで進んでいくことを大切にしたいと思いました。
- ・同じ状況の病態でっても感じ方や受け止め方は人それぞれであるということを学びました。また、話を聞いて、もっと看護師としてのレベルの向上をしていきたいと思いました。自分の能力が低いと出きることも出来なかったり、気付けることも気付けないと思いました。4月からも勉強します。勉強したいなと強く感じました。
- ・お話の中で印象に残ったことは、患者様とは友人関係ではないということ。自分自身で、さまざまな情報を収集して次の機会に活かすということです。実習に行った際に患者様に対してため口を使っている医療者がいました。その際、私は、患者様にとって親しみのある接し方をされているのだと考えました。しかしながら、お話を聞いた際に、それは間違った接し方であったのだと改めて振り返り、患者様への接し方について深く考える良い機会となりました。
- ・自我をしっかりと持つことで他へ働きかけることが出来るというお話が特に印象に残っています。自分をしっかりと作り込むために知識、技術を高め続け、自信を持てる自分となれるようにしていくことで、患者様など相手の事を考えていくことが出来るということを学ぶことができました。また、目配り、気配り、心配りの3つを大切に人と関わることが大切であるということを学びました。
- ・自分の倫理観を押し付けないということ。同じ病気であっても人によって感じ方、受け止め方が異なるということ。医療者の満足度と患者の満足度にはズレが生じているということ。
- ・自分の行ったことと患者さんの満足度には差が生じてしまう。
- ・患者さんと医療従事者の満足度がすれ違ってしまうこと。そもそも看護とは、医療従事者ではなく患者さんのために存在しているため、看護計画や実施においても私たちが中心ではなく患者さん中心で

なければならないこと。

- ・看護師として、人を相手とする職であるので、自分らしさを消すことなく同じ人間として関われる関係を大切にしていきたいと思いました。人それぞれに多様な考えがあり、小さな一面を見逃すことなく、その人らしさ、1つの強みを思ってこれから的生活面での関わり方を考えることも大切だと思いました。
- ・不安、ドキドキを感じるのは、それだけのことをやってきていない人しか感じないという言葉を見て、国試前にドキドキして疲れなかった私は、自分の限界を出し切れていたのかと思い、この言葉が頭の中に強く残りました。今後は不安やドキドキを感じずに生きれるように何事にも全力で立ち向かい、自信をもって物事を行っていけるようにしたいと思いました。
- ・自分を強く持つということがとても難しく、目の前の事ばかりに左右されてしまうということが印象に残りました。やる時やらない時のメリハリを今以上にしっかりとしていくことや、日々の患者さんとの関わりを大切にしていくことを意識したいと思いました。どうしても自分の弱みは簡単に克服することが出来ないため、出来ることから始めていき、環境に慣れ、人の役に立ち、自分の強みを活かせるようにしたいと考えられました。
- ・自分は自信が持てずに生活していることが多いですが、自信をもって主体的に自身で考え行動できるようにするには、知識や技術を身に着け、不安を晴らしていくことが大切なんだと思った。自信を高めるという話の中での先生の覚悟はすごく大きいもので、自分にはそこまでできないと思ったが、最善の医療を提供するためにも生半可な気持ちで臨むべきでないと覚悟が出来た。
- ・質疑応答の際に、自分を変えるためにインターネットやメディアを5年間見ずに本を読んでいたというお話が印象に残っています。今は様々な情報がインターネット上に溢れていて、自分が他の人の考えに惑わされてしまい、本当の自分が分からなくなってしまうことがあります。そんな自分を少しでも変えるためには、そのような努力をする必要があると考え、参考にしたいと思いました。
- ・夢が逃げるのではなく、自分が逃げているというのを聞いて本当にその通りだと思いました。今まで、あれになりたい、これになりたいと思っても、自分にはレベルが高すぎる、努力できないと勝手に自分がその道に進まない理由を見つけて努力から逃げていたことを改めて感じました。
- ・医療者側の期待度と患者側の満足度は必ずしも同じとは限らないというお話が、実際に実習を通して似たような事例を経験したがありました。なぜその差が生まれるのか、患者様のことを深く理解しようと思い、良い関係がつくれるように試行錯誤した記憶があります。どんなに時間をとって患者様とお話ししてもすぐにはラポールは形成されず、病棟看護師さんの方が信頼されているなと感じる部分もありました。仕方のないことではあるのですが、もどかしく苦い思いをしたことを思い出しました。患者様との関係も治療効果も満足度も一朝一夕には得られないということを忘れず、焦らず、自

己を押し付けないように注意しながら働いていきたいと思いました。

- ・自信を持つことは簡単な事ではないと私も思っていましたが、先生のお話の中で「責任を持つ」「逃げることはできない」という言葉を聞いて、4月から就職なので、改めて意識を高く持って現場で多くの事を学んでいきたいと感じました。また、医師、看護師、患者さんの3人が共有していき、治療を継続して受けられるよう、新人となったときには自分自身の役割をまずはしっかりと行っていたいと感じました。皮膚科は治療を継続していくことが心理面なども考えた時に、特に難しい話を聞いて感じましたが、治療を中断してしまった人へのフォローなどはどうなに行っているのか、先生であつたらどのような工夫をされているか気になりました。
- ・便利すぎると人間退化して成長しない　・自分を作り込む　・見えない情報まで掘り起こす　・仕事の醍醐味　・磨かれた直感は大事　・ピボット戦法　・軸足を動かさない　・周りに負けないを見つける　・質を高める　・不安は準備段階の時点で消しておく　・行動するときは楽観的に　・知識は役に立たない　・自分がやるべきことを周りに惑わされずにやる　・やりきらないといけないポイントを見逃さない　・生きやすくなるために学ぶ　・プロセスを大切にする
- ・良い医師「初診時」、良い看護師「寛解導入期」、良い患者「維持期」。　・自分が出来ない人は他人の事も診れない　・作り込んでいく　・自信を持って臨めるようにするには不安を1つずつ消し、自信に変えていく　・手が回らない→やる気がないということ　・時間はみな平等にある　・目配り（自分の目線で）、気配り（相手の立場先回りする）、心配り（人間学）、高度な知識、技術が必要

2. 4月から看護師として働く上で大切にしたいこと

- ・看護師には、適切な指導や患者に寄り添う姿勢が求められるため、常に戦場の考えでの3つのGoodが達成できるよう努力を続けていきたいと考える。他者（患者）のことを行うにあたってまずは自分自身のことを行えるように自己形成を大事にしていきたい。情報収集する際には、自分から欲しい情報を取りに行けるよう本質を見抜く眼力もつけていきたい。また、疑問を感じた時には一度立ち止まって考えていきたい。患者さんの徵候に気付き、それに耳を傾けられるような看護師でありたい。その上でまず社会人として目配り、気配り、心配りができるようにしたい。看護師として日々学び続けること、自分がやるべきことを周りに惑わさずにやり抜くこと、やり切らないといけないタイミングを逃さないで、休む時は休むとメリハリをつけて生活をしていきたい。また、技術練習は数をこなして終わりではなく、看護師として責任感を持って質を高められるよう努力していきたい。
- ・私欲を抑えるために、知識ではなく、その人の意志力を引き出すことができるよう患者さんと関わることを大切にしていきたいと思います。
また、目配り、気配りをして自分の立場や相手の立場から物事をみて行動できるように意識したいと思います。そのため心は余裕を持って過ごすことも大切なのかなと思ったので、不安への対処療法を参考にさせていただきながら働きたいと思います。
患者さんと関わる上で表情や言動などを観察していくことも大切にしていきたいです。より、質が良く、患者さんと医療者の満足度が一致するようにがんばります。
- ・自身の知識・技術を磨いていくことで、患者さんのみでなく周囲の医療者との信頼関係を築き、看護師として看護の果たすべき役割を全うすることを忘れずに働いていきたいと考える。
- ・4月から看護師として働くため、プロになるという自覚をして向上心を忘れないように働きたいと思った。
今は、自分に自信がないため技術練習や、経験を重ねて自信が持てるように頑張ります。
- ・今まででは、学生として1人の患者さんを受け持てばよかったけれど、これからは多くの患者さんと関わる機会が多いので忙しい中でもカルテからの情報だけではなく、見えない情報にも気づけるようにしていきたいです。
- ・医療者の満足度と患者の満足度にはズレがあると今回教えていただいたので、本当の患者の思いを聞き出すために、根気よく話を聞き、双方の満足度のズレがないよう関わりたいと思う。
- ・印象残った方にも書いてしまいましたが、覚悟を決めるこをよく考えて、意識していきたいと思いました。
- ・より良い看護を提供するためにこれからも学ぶということの大切さを忘れずにいきたい。

- ・私は、患者様の本当の思いに寄り添う看護を行いたいと考えています。寄り添うということは、とても難しく、感じ方や捉え方は人それぞれであるため自分と患者様で満足度が異なってしまうことも多くあると思います。それども、少しでも満足してもらえるようその方にあわせた関わり、コミュニケーション・看護を提供することで寄り添っていけるようにしていきたいと思います。忙しいという理由で初心の気持ちを忘れないよう4月から頑張っていきます！！
- ・患者の満足度というものは目に見えるものではないし、患者が「大丈夫です」と言っても心の中は異なることがありうるため、患者の満足度を捉えたり、理解し受け止めることはとても難しいと改めて実感し、日々の観察や思いを傾聴する姿勢の大切さを再認識することができました。また双方の満足度がなるべく満たされるよう、関係性を大切にし、信頼される存在になれるよう努力していこうと感じた。
- ・観察力を大切にします。0～100を短時間で全て情報を集められなくても、ポイントをつかみ観察していくようにします。
ですが、先生のお言葉にもあったように、患者様の質問や訴えは全てを聞き患者様が納得できる医療を看護師として考えていきたいです。
- ・患者さんは話せる方ばかりではありません。その為、先生のおっしゃっていたように見えない声にも耳を傾け、患者さんの本心、本音に気付き、1番側で寄り添えるような看護師になりたいです。
常に追求心を持ち、患者さんにとって本当に必要なものは何かなど根拠を持ち接する看護ができるようにしたいです。
- ・真摯さ・誠実さを忘れず、患者さんと向き合うこと。
患者さんは1人ひとり生きてきた背景や育った環境も違うため、自分軸でものをとらえず、患者さんを深く知ろうとすることから、関係性を構築していきたいと思います。
- ・人の命に関わる職業に就くうえで、責任感を持って行動することの必要性や、『時間がない』は言い訳に過ぎず、人はみな平等に時間があることから、自分にとって、また患者さんにとってどう有効に時間を使うべきか考えたいと思った。また、私は人と比べて落ち込むことが多かったが、自分は自分のやるべきことが何かを考え、自分の目標に向かって人からのよい刺激を受け取りつつも惑わされず芯を持ってがんばろうと思った。教科書では学べないことを多く教えていただけて貴重な機会となつた。ありがとうございました。
- ・新たな場所で、一からどんなことにも一生懸命働き、どんなに小さいことでも丁寧にすることを心がけていきたい。
- ・自分は余裕がなくなると相手への気配りが疎かになる傾向があります。看護師はチームで動いていくため、自分の良くない傾向を忘れずに、コントロールして周りの人と働いていきたいと思います。

- ・自己研鑽に努めます。楽な道より難しい道を選んで日々成長したいです。
- ・事前準備をしっかり行い自信を持って患者さんへ医療行為や看護を提供することを、働くうえで大切にしたいです。
- ・看護師として、講演を聞く中で、自分で強みを見つけることが必要だと考えました。特に強みを見つけることで自信につながると考えました。また、患者さんとの関係を築くためには、内面を知ることが必要だと考えます。その人自身をよく観察することを大切にしたいです。
- ・私は、何事にも初めてのことに対する不安を抱えながら、様々な壁にぶつかっていました。しかしお話を聞いてやってみないと分からぬし、不安の思っている事の一つ一つを取り除くことが必要なので事前に準備しておくようにしたいと思いました。また、信頼関係と友人関係はイコールではつながらないので、同じとして考えず、患者さんに対する態度も考えていきたいと思います。
- ・私が4月から看護師として働く上で大切にしたいことは、自分の立場で目配り、相手の立場で気配り、そして心配りが、当たり前のことを当たり前以上に行う。そして、時間がないという言い訳をせず、患者様から深く学べるかは自分次第であるため、忙しいという理由で患者様の話を流さず、時間をかけて立ち止まることを大切にしたいです。
- また、物事に対して自信を持って取り組むには、行動を起こす前に不安を1つずつ取っていくことが大切で、責任感・覚悟を持って立派な看護師になる。
- ・小さな気づきから多くの変化、良くなっているのか悪くなっているのかを考えられるよう、観察力の力を身に付け働いていきたい。
- ・看護師として働く上で、患者さんとの信頼関係や関わりを大切にしたいです。看護は、看護師だけでなく患者さんがいなければ行えないし、その上信頼関係が伴っていなければより良い看護や患者に寄り添った看護にもならないので、患者さん第一で考えて働いていきたいと改めて感じました。この度はありがとうございました。
- ・私は勉強などをするとき、やらなければならないことは分かっているのに他の興味のあることにすぐに逃げてしまうことがあるため、まずは誘惑が近くに無い環境を作り、集中力を高めるようにしていきたいと思った。また、看護師として迷わずプロフェッショナルだと言えるよう、1つ1つ経験や知識をしっかりと自分の中に吸収していくようにしていきたい。
- ・責任を持ち患者一人一人と真摯に向き合い、看護をしていくことを大切にしたいです。同じ疾患でも疾患に対する考え方は人それぞれ違うため、看護師が決めつけるのではなく、どう思っているのか不安はあるのかなど、一人ひとり個別性を大切にして接していくことが必要になると考えるため、大切にしたいです。

・試行錯誤することが自分のためにも患者のためにも大切という話を聞いたので、看護師として働く上で、基本に戻ったり患者に合った関わりは何か、など常に様々なことを考えて試行錯誤することを大切にしていこうと改めて思った。

医師、看護師、患者のそれぞれの役割を理解し、目標を共有することはチーム医療の中で“大切だ”と感じたので、多職種や患者との関わり・連携も大切にしていこうと思った。

・看護師は、新人でもベテランでも患者さんにとってプロフェッショナルであるため自覚を持って患者さんに接し、看護を提供することが必要だという話を聞いて、看護師は患者さんの命を預かる仕事であるため、プロフェッショナルであるという自覚を持って、患者さんと接することを大切にしたいと思いました。

・3つ目のテーマでもあったように、見えない情報まで読み取ることが働く上で大切だと気付かされました。今までの実習でもそうでしたが、これから看護師として働き始め、覚えなければならないことややらなければならないことが多く、いっぱいいっぱいになってしまい患者さんの声にまで耳を傾けることを忘れてしまうかもしれません。ですが、今回の話を聞き、自分の気持ちや思い、症状を訴えられる人ばかりではないため、自分から情報を取りに行くことや分析を行い、どのような状況なのか理解する力や、無言の声にも耳を傾けられるような看護師に成長できるように頑張っていきたいと強く感じました。

・本をたくさん読み、よく考えて、自分や相手、世の中のことを深く受け止められるようになりたいと思いました。

・看護師は、様々な患者さんと密な関わりをすることになるので、柔軟に対応できる看護師になりたいと考えます。岸本先生がおっしゃっていた、情報を受け取る側に主観が入るのは当たり前だということを忘れず、患者さんによって捉え方が違うことに対していろんな方面からのアプローチができるように頑張ります。そのためにも、知識も大切ですが、コミュニケーション力も大切だと思うので、仲良くなるという感覚よりも、信頼関係を築くことに重点を置いていこうと思います。

・表情やしぐさにより意識を持つことが患者に寄り添えると感じるため、声がないコミュニケーションを大切にしたいと思いました。

多重課題の中で患者さんと多くの時間を使ってコミュニケーションをとることは難しくなると思われるが、短い時間の中でも大切にできることがあると思った。

・患者さん一人ひとりに真摯に向き合っていきたい。

そして、その上で治療のサポートを心身ともにていきたい。自分の能力向上も行っていきたい。

・私は、社会人で看護学校に入学し、子育てや家事を言い訳に時間がないと見てみぬふりをして子育ても家事も中途半端な部分が多くあった3年間でした。しかし、3年間をやり抜くことができたこと

で、今まで見えなかった景色を見ることができました。今後も日々勉強、学び続けることで、看護師として、母として、妻として、役割を全うしていきたいです。がんばります。

- ・自信を持てるように今のうちから知識や技術の復習をし、準備の段階で不安を消しておくということがとても大切であると学びました。また、「あたり前のことをあたり前にきっちりする」という言葉から、とても難しいことではあるが、自分の立場に置き換えたり、相手の立場になって考えたりすること、目配り・気配り・心配りを大切に働いていきたいと思いました。
患者さんと関わる際には、毎日、心の知らせをくみ取れるように信頼関係を築いていきたいと思いました。
- ・今後プロフェッショナルとしての自覚と責任を忘れず名看護師となれるよう日々精進していこうと思っています。
また、心配りを大切にして、表情・仕草だけでなく、心に寄り添い常に歩み寄る姿勢で看護にはぐくんでいきます。
岸本先生がおっしゃっていたように、そうなるという思い上がりではなく、プロセス（努力）を大事にして、たくさんの気づきができる人になっていこうと思いました。貴重なお話しありがとうございました。
- ・ナースとして、何を患者は求めているのかを理解しようとする姿勢を持つて人になりたいです。
患者の人生のたった一部に関与するということでその人らしくその人が生きていけるように支援していきたいです。貴重なお時間をありがとうございました。
- ・上記のように、患者様－看護師関係をしっかりと確立させ、患者様にとって必要な看護を提供していきたいです。また、提供する際には、患者様、ご家族から多くの情報を収集していき、患者様の声なき思いに目を向けていきたいです。
そして、私自身が患者様家族であるということから、今までの経験を活かし、患者様だけでなくご家族にも寄り添った看護を行っていきます。
- ・時間がないといいわけせず、自信を持って患者様に看護を提供することができるよう学び続けていくこと、患者様との関わりからも学びを深めていくことを大切にしていきたいと考えています。患者様の言葉や表情から相手の気持ちを理解しようとする姿勢を大切にし、その方に合わせた看護について考え続け実践へつなげていきたいと思います。
- ・自分の考えを他人に押し付けず、でも自分の考えも大切にしながら他人を尊重して接していきたい。
- ・患者さんから質問がなくなるまで傾聴を行い、満足度に差がないようにしていきたいです。
- ・日々やらなければならないことが多い中で、自分たちの業務を優先し自己満足になることは避け、患

者さんの満足度が優先されるよう心の余裕を持っては働いていきたい。

- ・現在、コロナ禍になったことで不安な病院生活で大切な面であった家族との関わりが制限される体制残念ながら続いている。

普段の生活の中で、あたり前に思えていたものがあたり前から離れてしまう…その様な中で少しでも治療に専念できるように、不安に寄り添う姿勢や、患者と家族の間をとりもつ存在としての関わりという部分を大切にしていきたいと思います。

看護に関わると一番人間らしさが表出されていて、多様な存在で社会が成立していることが分かります。答えのテンプレートが無いところに難しさを感じてしまうことも多い職だと思いますが、逆に一人一人の良さ、強みを見つけて寄り添うことができるのも看護の職のやりがいに当たる部分にも感じます。それらに向き合って働きたいと思います。

- ・患者さんの表情や言動を見て聞いて、患者さんが何を訴えているのかを読み取れるようにしたい。

治療の結果が、患者さん・医療者ともに満足のいく結果となるように、患者さんの気持ちに寄り添い、患者さんの求めているものをふまえながら看護計画を立案していきチームで行うようにしたい。患者さんが満足のいく結果が得られなかったときの改善点はどこなのか、それをどう修正すべきか考え、よりよい医療を提供できるようにしたい。

- ・働く上では限られた時間の中でその患者さんにできることは何かを常に考え続けられるようになります。どうしても目の前にあることばかりに気を取られてしまうため、気になることは何かに書き残したり、見逃さないようにしたり、一つ一つのことを丁寧にこなしたいです。

また、時間を理由にできないことをできないままにしないよう気をつけていきたいです。

- ・先生の話していた、目配り・気配り・心配りを大切にし、よりよい職場環境作りに貢献していきたい。

- ・人はそれぞれ色々な考えを持っていて、自分が行ったことや治療の効果に対する満足度も変わってくると分かりました。そこで、4月から働く上でその人の価値観や性格を大切にしていきながら、寄り添える看護師になりたいと考えます。

- ・実習のときは1人の患者さんに対して時間をたっぷり使うことができていたが、働きだしたらそういうわけにはいかなくなる。しかし、そういったことや忙しいことを理由に患者さんに対して適当な対応になることは絶対に避けていきたいと思う。日々の看護を流れ作業にせず、しっかりと世話ではなく看護を行っていくよう気を付けていきたいです。

自分自身の余裕を作るためにも、まずは自分の看護技術を完璧にして患者さんに安全安楽が提供できるようにしていきたいと思います。

- ・自己を律するとういう部分を意識して仕事も私生活もこなしていきたいと思いました。できなかつた

理由に「時間がなかった」ということが多く、逃げだなど自分でも感じていましたが、なかなか直せずにいました。先生は5年間もメディアを断ち自分の精神を鍛えたという話を聞いて、私にはとても真似できないなと驚愕しました。いきなりそんな過酷な状況になっても続けられないと尻込みをしてしまうので、私は自分に合った方法で自分を育てたいと思います。

- ・自分自身の役割をしっかり行いながらも、医師、看護師、患者さんと共有し、患者さんの反応や主観的言動などから満足感を考えたり、私たちが与える影響についても常に振り返りながら看護を行っていきたいと感じました。
- ・自信を持って臨めるようにするには不安を1つずつ消して自信に変えていく　・ずっと不安だと言っていても状況は変わらないので、なぜ不安なのかを考え一つずつ消化していき、「わかる」「できる」を増やしていき自信にしていくこと　・時間はみな平等にある　・手が回らないと言っているのはやる気がないと同じ　・時間管理を大切に
- ・基本をしっかり身につける　・鍛錬する　・ムダだと思わないで何でもやってみる　・主観、偏見抜きで考えるクセをつける　・自分で必要な情報を取りに行く　・積み重ねが大切　・患者さんから学ぶ　・立ち止まるクセをつける　・自分に置き換えて考える、学ぶ　・こうなりたいという考えをもつ　・よく聞く、見る　・責任感・集中力・意志力　・目配り・気配り・心配り　・名看護師で当たり前　・考える